

.....

.....

.....

1

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[26]歳、 勤続年数[4]年、 現場経験年数[4] 年、 階級[消防士]、 同様の活動 [1 年に数度]、 任務 [隊員]
○当事者 B	年齢[27]歳、 勤続年数[3]年、 現場経験年数[3]年、 階級[消防士]、 同様の活動 [1 年に数度]、 任務 [隊員]
○当事者 C	年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	

11. 事例発生経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	A	隊員と二人で屋内進入。 放水，人命検索を行う。	
経過 2	B	後着し，A 達が屋内進入してるとは知らず， 放水するために別の開口部を開く。	
経過 3	A	急激な空気の流入によって，火煙が爆発的な 燃焼を起こしながら天井へ上がるのを確認。	
経過 4	A	一緒に進入していた隊員と緊急脱出をする。	
経過 5			
経過 6			
経過 7			
経過 8			
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

[illegible]

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できた。危険事象の対応方法を知っていた。集中力、注意力があった。避難・退避がうまくいった。現場周辺の地理を知っていた。たまたま、負傷事故にならなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならぬという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	はい
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用 방법이誤っていた。	はい
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	はい
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった（寒かった）。	はい
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	はい
・指示内容に誤り・偏りがあった。	はい
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	はい

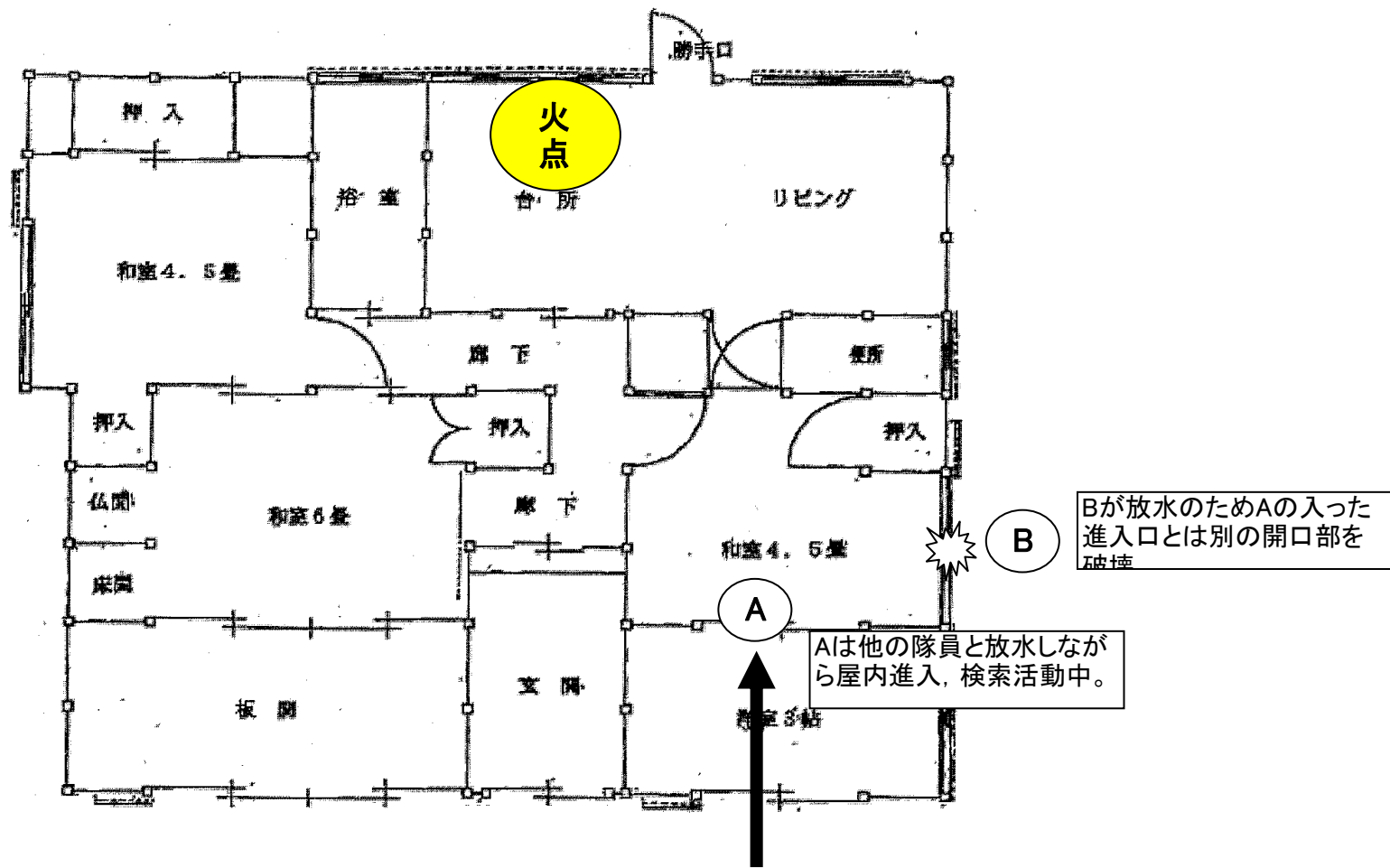
k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	はい

○その他

l. その他の理由があった。

--



・発生日時：平成11年10月15日 午前9時頃

経過	現場の状況	隊員A	隊員B	備考
		隊員／消防士 ・年齢 26歳 ・勤続 4年 ・現場 4年 ・同様の活動：1年に数度	隊員／消防士 ・年齢 27歳 ・勤続 3年 ・現場 3年 ・同様の活動：1年に数度	
出動指令 出動途上 現場到着 活動初期	一般建物火災の出動指令			火災への消防出動
	木造平屋	現場到着		
		他隊員と二人で屋内進入 放水，人命検索を行う		
			後着	
活動中期	急激な空気の流入によって，火煙が爆発的な燃焼		放水するために別の開口部を開く	隊員A達が屋内進入してるとは知らない 活動統制情報の不足
		火煙が爆発的な燃焼を起こしながら天井へ上がるのを確認		
		一緒に進入していた隊員と緊急脱出		
活動以降				

◎ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？
○直接的な原因：情報入力に問題があった。 ・危険情報を把握、予見できた。 ・集中力、注意力があった。 ・現場周辺の地理を知っていた。 ・危険事象の対応方法を知っていた。 ・避難・退避がうまくいった。 ・たまたま、負傷事故にならなかった。

◎ヒヤリハットが起きた背後要因
(心理・体調について) ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。 ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。 ・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。 ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。 ・活動に対する経験が不足していた。 (装備・資機材について) ・装備・資機材の使用 방법이誤っていた。 ・装備・資機材の対処能力を超えていた。 (活動環境について) ・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。 ・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。 ・狭隘な場所であった。 ・暑かった(寒かった)。